

# 建築設備技術遺産に3件認定



鑄鉄製ボイラー

建築設備技術者協会（JABMEE、野部達夫会長）は29日、2019年度建築設備技術遺産として「鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）」と「井上宇市先生のガリ版刷りの建築設備関係教科書及び関連資料」「便所自

## JABMEE 累計36件に

動洗浄器」の3件を発表した。同賞は、建築設備部門の技術と設備関連情報、これらを建物に収めてきた技術を次世代に継承することを目的に12年度に創設。累計は技術遺産34件と特別遺産2件の計36件となっている。このうち、「昭和鉄工製アサヒボイラー1936年製造」（管理者＝滋賀県豊郷町教育委員会、所有者＝豊郷町）は、ヴォーリスが設計した尋常高等小學校の全館暖房用熱源として使用された現物で、新校舎を建設したにもかかわらず建物が保存され、戦時中の金属供出からも免れたもの。

また、井上宇市が早大建築学科の講義で使用した「建築設備関係教科書及び関連資料」（管

理・所有者＝長谷見雄二早大教授）は、日進外歩で進化する建築設備技術に合わせるとともに、設備設計者・意匠設計者が設備計画・設備設計の重要性を理解するための工夫に加えて、毎年のように改定したガリ版刷りの教科書類となる。

「伊勢式便器自動水洗弁に関するアイエス工業所昭和13年カタログと便所自動洗浄器特許明細書（大正15年）」（管理・所有者＝アイエス工業所）は、現物ではないものの、90年以上前に便器洗浄の節水化と衛生性を使用者の体重を感じる機械式自動洗浄弁による制御を実現しようとしたもの。

使用前洗浄に加えて汚物付着防止も考慮されていることが高く評価された。



### JABMEE 建築設備技術遺産に3件 井上宇市がまとめた技術書など

建築設備技術者協会（JABMEE、野部達夫会長）は19年度の「建築設備技術遺産」を決めた。1937年開校の旧豊郷小学校（滋賀県豊郷町）で使用した「鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）」や、建築設備技術者として後進の指導に当たった井上宇市（1918～2009年）がまとめた「設備関係の技術書」など3件を選んだ。6月27日に東京都内で開く通常総会後に認定式を行う。

鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）

鑄鉄製ボイラーは1937年開校の旧豊郷小学校（滋賀県豊郷町）で使用した「鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）」や、建築設備技術者として後進の指導に当たった井上宇市（1918～2009年）がまとめた「設備関係の技術書」など3件を選んだ。6月27日に東京都内で開く通常総会後に認定式を行う。

## 日空衛総会 CCUSの登録推進 長谷川会長を再任 働き方改革も

見交換を開催する。他業種と連携しボーリングマシン等の自動化を目的とした研究事業に本腰を入れる。協会活動として▽調査研究・成果普及事業▽提言事業のほか、会員企業の経営支援などを目的とした公益事業を展開する。提言事業では安全安心な国土づくりに貢献するため、国土情報センター（岩崎公敏理事長）が運用する「国土情報DB」の利活用を国や地方自治体に促す。国土強靱（きょう）ガンなども承認した。

日本空調衛生工事業協会（日空衛、長谷川勉会長）は29日、東京都千代田区の帝国ホテルで定時総会を開き、任期満了に伴う役員改選で長谷川会長を再任した。2019年度の事業計画や予算、業界実践スローガンなども承認した。

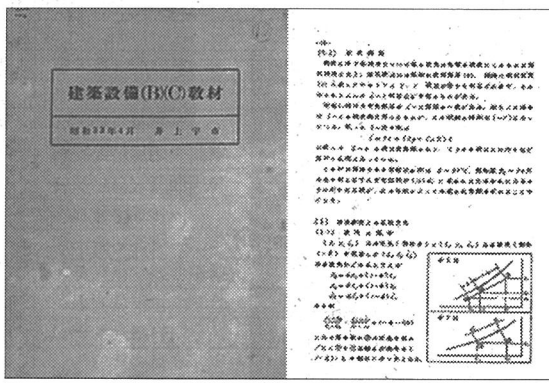


冒頭、長谷川会長は写真明。その上で「人材確保に向けて建設キャリアアップ」は「空調衛生工事業を取り巻く環境は、都市部を中心になおむね堅調に推移しているが、地方との格差も見られ、担い手不足や中長期的に安定した工事量の確保が不透明なことなど、先行きは楽観できない」と説

日の参院本会議で可決、成立した。女性社員の活躍につながる取り組みを評価する最高水準の優良企業認定制度の「プラチナ企業」を創設し、国の公共調達で加点評価する。女性社員の活躍につながる具体策を列挙した「一般事業主行動計画」の策定を義務付ける対象企業も拡大。常用労働者数を現在の301人以上から101人以上の企業へと対象を広げる。新制度の「プラチナ企業」は、既存制度の「えるぼ

改訂フロン排出抑制法が29日の参院本会議で可決、成立した。業務用のエアコンや冷凍庫に含まれる冷媒用の「代替フロン」など、温室効果が二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）よりも高いフロン類の適切な回収や処理を促す際、ユー

改訂フロン排出抑制法 建物解体時の対 容は、労働政 政審、厚生



井上宇市によるガリ版刷りの建築設備関係教科書・関連資料

6年に昭和鉄工が製造を開始。2001年に閉校するまで同校の全館暖房用ボイラーとして役割を担った。当時の日本では珍しいRC造建築で「東洋一の小学校」

とつたわれ、2013年には国の登録有形文化財として指定。戦前から残る貴重な建築設備遺産であることから認定し

### 便所自動洗浄器の製品カタログと特許明細書

器」。当時の日本では珍しい水洗式トイレの先駆けとなり、人の重みに反応して使用前後に水が流れる仕組みを採用した。1回当たりの水使用量が8リットルと高い節水能力も持ち合わせていた。製品自体が現存しないため、製品カタログと特許明細書を設備技術遺産として認定した。

建築設備技術遺産は建築設備の技術や役割を次世代に継承する目的で創設。8回目を迎える本年度は、現存しない製品や功績なども認定の対象に加えた。審査委員長の鎌田元康（東京大学名誉教授）が審査し、3件を選定。累計36件（うち特別認定2件）となった。

### 中小

中小企業等 計4本の改訂「中小企業強化法」が国会で可決、

改訂中小企業

溶接部の可視化を実現し、小型・低廉化することを目指した。屋内照明からアーク近傍まで極めて広い明るさの範囲を扱う必要があるため、1つのカメラユニットにつき複数のイメージセンサを用

### 空調実習スペース

策の一つとして、業務効率化や省人化に向けた実証実験を進める。

また、同施設は、東京都内の事務所ビルとなるエネルギー

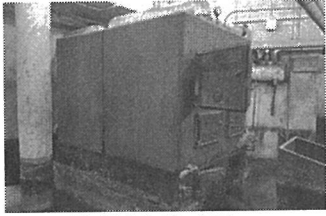
千削減率75%の「Nearly ZEB」認証を取得している。地中熱を汲み上げ、躯体接触型の冷温水パイプにより躯体に蓄熱させ、それを天井や壁から放熱、冷却する「躯体利用輻射冷暖房システム」を採用しているほか、太陽光発電による創エネも活用し、省エネと快適性の両立を実現した。エネルギーに関するデータ蓄積の場としても活用し、省エネ提案にもつなげていくことを予定している。

「次世代3D溶接マス」により、一般的なイメージセンサであっても、ダイナミックレンジを大幅に拡張することが可能になったことから、カメラユニットの小型・低廉化が実現した。

## 設備技術遺産を認定

昭和鉄工 鑄鉄製ボイラーなど3件 JABMEE

建築設備技術者協会（JABMEE）野部達夫会長は29日、19年度建築設備技術遺産と認定した技術3件を発表した。同制度は、建築設備部門の技術と設備関連情報、これらを建物に収めてきた技術を次世代に伝えることを目的に12年に



鑄鉄製ボイラー

今年度認定されたのは、▽鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）▽管理者は豊郷町教育委員会、所有者は滋賀県大上郡豊郷町、製造者は昭和鉄工▽井上宇市先生の方版刷りの「建築設備関係教科書及び関連資料」▽管理・所有者は長谷見雄二早稲田大学教授▽便所自動洗浄器（伊勢式便器自動水洗浄に関するアイエス工業所の昭和13年カタログと、便所自動洗

に相談しながら確かな溶接作業が行える。また、溶接に関する各種パラメータの表示・保存機能により、特に実務経験の少ない溶接作業者にとっては溶接品質を確保するうえで有用な情報を、容易に収集・確認することができ、技能の早期向上が期待されている。装置を介して間接的に視認することになるため、アークから目を完全に保

浄器特許明細書）▽管理・所有者はアイエス工業所。鑄鉄製ボイラーは、1936年の製造で戦時中の供出を逃れ建物とともに現存しており、戦前の貴重な設備遺産として認定された。井上宇市の教科書及び関連資料は、建築設備技術者の教育の原点となり、その後の建築設備教育の方向性を決めたことが評価された。便所自動洗浄器は、約90年前に便器洗浄水量を8割程度とした節水化や衛生性などの技術とアイデアが認められた。

### 建設産業新聞 2019. 5. 30

## 本的なルールを守る

日本理浚協関東支部ほか

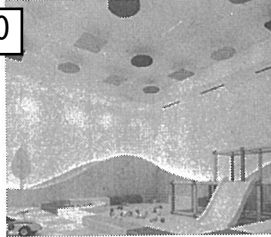
19年度第1回港湾工事安全衛生環境研

本理立浚協関東支部、関東港湾空港建設協会連合会、日本海上起重技術協会関東支部、全国浚渫業協会東日本支部は27日、横浜市中区のか



表彰式は、6月27日に東京・港区の明治記念館で開催する通常総会後に

「KINTONE」は、既存の天井取り付けが可能な吸音パネル「キントーン」を8月21日から発売する。同社は、中期経営計画「GP25 2nd Stage」において、公共・商業建築分野を注力市場に掲げ、同市場に向けた製品の開発や積極的な提案活動に取り組んでいる。



施設での施工イメージ

「KINTONE」は、既存の天井取り付けが可能な吸音パネル「キントーン」を8月21日から発売する。同社は、中期経営計画「GP25 2nd Stage」において、公共・商業建築分野を注力市場に掲げ、同市場に向けた製品の開発や積極的な提案活動に取り組んでいる。